

行動科学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
社会行動科学特論Ⅰ	多文化共生論	2	永吉 希久子	1学期	木	2	1	社会行動科学特論Ⅰ
社会行動科学特論Ⅱ	政治心理学	2	田辺 俊介	集中(2学期)			2	社会行動科学特論Ⅱ
数理行動科学研究演習Ⅰ	社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル	2	佐藤 嘉倫、瀧川 裕貴	1学期	水	3	3	数理行動科学研究演習 Ⅰ
数理行動科学研究演習Ⅱ	エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明	2	佐藤 嘉倫、瀧川 裕貴	2学期	水	3	4	数理行動科学研究演習 Ⅱ
数理行動科学研究演習Ⅲ	ベイズアプローチによる社会学の理論と実証	2	浜田 宏	集中(1学期)			5	数理行動科学研究演習 Ⅲ
数理行動科学研究演習Ⅳ	社会科学のためのエコノメトリクス	2	浜田 宏	2学期	水	2	6	数理行動科学研究演習 Ⅳ
計量行動科学研究演習Ⅰ	「家族構造と子ども」の計量分析	2	木村 邦博	1学期	火	2	7	計量行動科学研究演習 Ⅰ
計量行動科学研究演習Ⅱ	社会調査法への認知科学的アプローチ	2	木村 邦博	2学期	火	2	8	計量行動科学研究演習 Ⅱ
計量行動科学研究演習Ⅲ	偏見の社会学	2	永吉 希久子	1学期	金	2	9	計量行動科学研究演習 Ⅲ
計量行動科学研究演習Ⅳ	移動と階層	2	永吉 希久子	2学期	金	2	10	計量行動科学研究演習 Ⅳ

科目名：社会行動科学特論Ⅰ／ Social Behavioral Science(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：永吉 希久子（准教授）

講義コード：LM14211， 科目ナンバリング：LIH-OS0601J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 社会行動科学特論Ⅰ】

1. 授業題目：

多文化共生論

2. Course Title (授業題目)：

Multicultural Society and Its Problems

3. 授業の目的と概要：

目的：日本における多文化共生の実態と社会制度の影響を理解し、説明できるようになる。

概要：日本における外国人住民の生活状況について、様々な社会制度との関わりを検討する。

4. 学習の到達目標：

日本における多文化共生の実態と社会制度の影響を理解し、説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

国境を越えた人の移動は、そうした人々を受け入れた社会に影響を与える。その一方で、社会のあり方によって、国境を越えて移動してきた人の生活状況は異なる。この講義では、多文化社会における問題を把握し、解決策を考えるために、日本における移民の生活状況（仕事や学校、地域生活、家庭生活など）と、それに対する社会制度の影響について理解することを目的としている。

授業は講義形式で行うが、映像資料の利用や、受講者間でのディスカッションを通して、授業内容を自分にひきつけつつ考える時間を設ける。各回の具体的な内容は、「授業予定」に記載の通り。

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：日本における外国人受け入れの歴史

第3回：国民観の国際比較と国籍・移民制度

第4回：低技能労働者としての外国人

第5回：高技能労働者としての外国人

第6回：ケアワーカーとしての外国人

第7回：難民

第8回：国際結婚

第9回：外国人の子どもの教育①

第10回：外国人の子どもの教育②

第11回：高齢外国人の生活状況

第12回：外国人と医療

第13回：諸外国における外国人受け入れ制度

第14回：地域における外国人住民との関係

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

コメントシート（30%）、最終レポート（70%）

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。

参考書は授業の中で適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

外国人の受け入れや在日外国人の生活状況に関連するニュースに関心を持ち、情報を集めておくことが期待される。

9. その他：なし

科目名：社会行動科学特論Ⅱ／ Social Behavioral Science(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

学期：集中(2学期)， **単位数：**2

担当教員：田辺 俊介（非常勤講師）

講義コード：LM98833， **科目ナンバリング：**LIH-OS0602J， **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 社会行動科学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

政治心理学

2. Course Title (授業題目)：

Political Psychology

3. 授業の目的と概要：

政治心理学の諸理論を理解し、ポピュリズムの隆盛など近年国内外の政治的現象について説明できるようになる。

4. 学習の到達目標：

政治心理学の諸理論を理解し、ポピュリズムの隆盛など近年国内外の政治的現象について説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

政治意識や世論の形成メカニズムに関する政治心理学の古典的研究や最新の知見を紹介する。具体的には、政治的社会化、階層と政治意識の関連、政治知識と政治の有効性感覚、政党支持、自己利益と価値観の影響、メディアの影響、選挙制度の影響、ポピュリズムなどを取り上げる。

◆ 授業内容・方法

1. 政治意識研究の特性と位置づけ
2. 世論と民主制
3. 民主制社会における社会階層と政治
4. 政党制と政党支持意識
5. 選挙制度と民主制
6. 政治的知識と政治の有効性感覚
7. 政治意識の形成要因①：自己利益か価値観か？
8. 政治意識の形成要因②：政治的社会化とシティズンシップ教育
9. メディアと民主制
10. ポピュリズムと民主制
11. 社会的アイデンティティと政治意識
12. ナショナリズムと政治意識①：愛国主義
13. ナショナリズムと政治意識②：排外主義
14. 2010年代日本における政治意識と政治行動
15. まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポートにて行います。課題は、授業で取り扱ったトピックのひとつを取り上げ、それについて計量研究上の課題を明らかにする、というものです。

詳細は授業中にお知らせします。

7. 教科書および参考書：

田辺俊介編、2011、『外国人へのまなざしと政治意識』勁草書房。

田辺俊介編、2014、『民主主義の「危機」』勁草書房。

田辺俊介編、2019（予定）、『現代日本のナショナリズムと政治（仮題）』勁草書房。

8. 授業時間外学習：

授業で紹介した論文を実際に読んで、理解を深めることが重要です。

9. その他：なし

科目名：数理行動科学研究演習Ⅰ／Mathematical Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

学期：1学期，単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫、瀧川 裕貴（教授、准教授）

講義コード：LM13309，科目ナンバリング：LIH-OS0603J，使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者)対応科目名：数理行動科学研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル

2. Course Title (授業題目)：

Self-organization of Social Order and Agent-based Models

3. 授業の目的と概要：

人々が自発的に秩序（協力行動など）を生み出している社会現象がある。本演習では、いくつかの論文を輪読して、これらの現象を分析する方法を理解する。

4. 学習の到達目標：

進化ゲーム理論やエージェント・ベースト・モデルが社会学にいかなる貢献をするのか理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション（1）
2. イントロダクション（2）
3. 社会秩序概念の検討（1）
4. 社会秩序概念の検討（2）
5. 自己組織性の理論的検討（1）
6. 自己組織性の理論的検討（2）
7. 自己組織性の経験的分析（1）
8. 自己組織性の経験的分析（2）
9. 進化ゲーム理論（1）
10. 進化ゲーム理論（2）
11. 計算社会学入門（1）
12. 計算社会学入門（2）
13. エージェント・ベースト・モデル（1）
14. エージェント・ベースト・モデル（2）
15. ここまで演習で取り上げたトピックを再検討し、エージェント・ベースト・モデルによる社会秩序の自己組織メカニズムの分析について探究する。

6. 成績評価方法：

（ ）筆記試験 [%]・(○) レポート [50%]・(○) 出席 [50%]

7. 教科書および参考書：

開講時に指示する。

8. 授業時間外学習：

演習中の議論に積極的に参加できるように、事前に関連文献に目を通すなど予習をしておくこと。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日第5講時（事前に予約すること）

後期の数理行動科学研究演習Ⅱと併せて参加すること

科目名：数理行動科学研究演習Ⅱ／ Mathematical Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫、瀧川 裕貴（教授、准教授）

講義コード：LM23308， 科目ナンバリング：LIH-OS0604J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 数理行動科学研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明

2. Course Title (授業題目)：

Analysis of Self-organization and Agent-based Models

3. 授業の目的と概要：

エージェント・ベースト・モデルの手法を修得し、自分で自己組織性を解明する。

4. 学習の到達目標：

前期の議論を踏まえて、実際にエージェント・ベースト・モデルを構築して、社会の自己組織性を自分で解明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. プログラミング入門（1）
3. プログラミング入門（2）
4. プログラミング入門（3）
5. 研究テーマの決定とグループ分け
6. グループ別の進行状況報告と検討（1）
7. グループ別の進行状況報告と検討（2）
8. グループ別の進行状況報告と検討（3）
9. グループ別の進行状況報告と検討（4）
10. グループ別の進行状況報告と検討（5）
11. グループ別の進行状況報告と検討（6）
12. グループ別の進行状況報告と検討（7）
13. グループ別の進行状況報告と検討（8）
14. グループ別の進行状況報告と検討（9）
15. 各グループによる最終的な研究報告

6. 成績評価方法：

（ ）筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [50%]

7. 教科書および参考書：

開講時に指示する。

8. 授業時間外学習：

グループに分かれてプログラミングを行うので、積極的にグループワークに参加すること。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日第 5 講時（事前に予約すること）

前期の数理行動科学研究演習Ⅱと併せて参加すること

科目名：数理行動科学研究演習Ⅲ／ Mathematical Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1 学期)， 単位数：2

担当教員：浜田 宏

(教授)

講義コード：LM98834, 科目ナンバリング：LIH-OS0605J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 数理行動科学研究演習Ⅲ 】

1. 授業題目：

ベイズアプローチによる社会学の理論と実証

2. Course Title (授業題目)：

Sociological Theory and Bayesian Statistics

3. 授業の目的と概要：

- 1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ.
- 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ. 見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する.

4. 学習の到達目標：

Stan を使ったベイズ統計の分析手法を習得する
現象の数学的表現を習得する
日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション モデルとはなにか
2. 真の分布, 確率モデル, データ
3. 最尤推定
4. ベイズ推定
5. MCMC
6. 確率分布
7. 汎化誤差, AIC, WAIC, 予測分布
8. Stan による分析：回帰
9. Stan による分析：モデル式の書き方
10. Stan による分析：階層モデル
11. Stan による分析：所得分布分布生成モデル
12. Stan による分析：観測モデルとの接合
13. Stan による分析：時間割引モデル
14. Stan による分析：教育達成の階層間格差
15. まとめと総括

6. 成績評価方法：

レポート [50%], 出席 [30%], その他 (授業時間内での報告や質問と、報告・レポートに至るまでの過程) [20%]

7. 教科書および参考書：

参考書：久保拓哉, 2012, 『データ解析のための統計モデルリング入門』岩波書店.

松浦健太郎, 2016, 『Stan と R で統計モデリング』共立出版

Gelman et al. 2013, Bayesian Data Analysis, Third Edition, CRC Press.

その他の参考書は適宜指示する

8. 授業時間外学習：

予習に指定した範囲を事前に読んでくること.

9. その他：なし

本演習では R と Stan による実装例を紹介するので、実行環境を整えたノート PC を持参することが望ましい.

科目名：数理行動科学研究演習Ⅳ／ Mathematical Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：浜田 宏

(教授)

講義コード：LM23209， 科目ナンバリング：LIH-OS0606J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 数理行動科学研究演習Ⅳ 】

1. 授業題目：

社会科学のためのエコノメトリクス

2. Course Title (授業題目)：

Econometrics for Social Science

3. 授業の目的と概要：

- 1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ.
- 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ. 見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する.

4. 学習の到達目標：

データの分析手法を習得する
現象の数学的表現を習得する
日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

テキストを輪読しながら数学的詳細をフォローする. 計算が必須なので必ず予習すること.

1. イントロダクション
2. 単回帰
3. OLS 推定量
4. 不均一分散
5. 検定
6. 欠落変数バイアス
7. 線形射影
8. 操作変数法
9. 識別
10. 反実仮想
11. 回帰不連続デザイン
12. 行列と漸近理論
13. 漸近効率性
14. GLS 推定量
15. TSLS 推定量, まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [20%], 出席 [60%], その他 (授業時間内での報告や質問と、報告・レポートに至るまでの過程) [20%]

7. 教科書および参考書：

教科書：末石直也, 2015, 『計量経済学』日本評論社

鹿野繁樹, 2015, 『新しい計量経済学』日本評論社

参考書：

久保拓哉, 2012, 『データ解析のための統計モデルリング入門』岩波書店.

8. 授業時間外学習：

毎週, 指定された予習範囲を事前に読みコメントペーパーを準備する
指定された予習範囲の計算や証明を自分で確かめる

9. その他：なし

確率論, 微分積分, 線形代数の授業を事前に履修していることが望ましい.

科目名：計量行動科学研究演習Ⅰ／ Quantitative Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LM12212, **科目ナンバリング：**LIH-OS0607J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 計量行動科学研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

「家族構造と子ども」の計量分析

2. Course Title (授業題目)：

Quantitative Analysis of Family Structure and Children

3. 授業の目的と概要：

- (1) 「家族構造と子ども」に関する計量行動科学的研究の動向を把握し、今後の展開を展望する。
- (2) 学術的な英語文献を読む力をつけるとともに、行動科学的な思考力を養う。
- (3) 多変量解析を用いた計量的研究を理解し、自分でも実施する力を身につける。

4. 学習の到達目標：

- (1) 「家族構造と子ども」に関する行動科学的研究の動向を把握し、今後の展開を展望する。
- (2) 学術的な英語文献を読む力をつけるとともに、行動科学的な思考力を養う。
- (3) 多変量解析を用いた計量的研究を理解し、自分でも実施する力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業計画の説明
2. 家族構造と子どもの読解力 (Park 2007)：内容理解
3. 家族構造と子どもの読解力 (Park 2007)：方法論的検討（重回帰分析）
4. 家族構造と子どもの教育アスピレーション (Park 2008)：内容理解
5. 家族構造と子どもの教育アスピレーション (Park 2008)：方法論的検討（ロジスティック回帰分析）
6. 離婚と社会移動 (Biblarz and Raftery 1993)：内容理解
7. 離婚と社会移動 (Biblarz and Raftery 1993)：方法論的検討（ログリニアモデル）
8. 家族構造と子育てスタイル (Chan and Koo 2011)：内容理解
9. 家族構造と子育てスタイル (Chan and Koo 2011)：方法論的検討（潜在クラスモデル）
10. 離婚と心理的健康 (Amato and Sobolewski 2001)：内容理解
11. 離婚と心理的健康 (Amato and Sobolewski 2001)：方法論的検討（構造方程式モデリング）
12. 家族構造と婚姻前出産 (Wu and Martinson 1993)：内容理解
13. 家族構造と婚姻前出産 (Wu and Martinson 1993)：方法論的検討（イベントヒストリー分析）
14. 家族政策、家族構造と子どもの成績 (Pong, et al. 2003)：内容理解
15. 家族政策、家族構造と子どもの成績 (Pong, et al. 2003)：方法論的検討（マルチレベル分析）

6. 成績評価方法：

期末レポート [50%]、平常点（授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程） [50%]

7. 教科書および参考書：

American Sociological Review, Journal of Marriage and Family, Demographic Research などの学術誌に掲載された論文で指定されたもの（「授業内容の詳細」欄に掲載）を、参加者各自が「電子ジャーナル」からダウンロードする。

8. 授業時間外学習：

- (1) 演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。
- (2) 担当の文献に関する報告の準備をする。
- (3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。

9. その他：なし

- (1) 専門社会調査士資格認定標準科目Ⅰに対応。
- (2) 受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

科目名：計量行動科学研究演習Ⅱ／ Quantitative Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LM22213, **科目ナンバリング：**LIH-OS0608J, **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 計量行動科学研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

社会調査法への認知科学的アプローチ

2. Course Title (授業題目)：

Cognitive Approaches to Survey Methodology

3. 授業の目的と概要：

1980年代頃から、認知科学・認知心理学の方法や成果をもとに社会調査法に反省・検討を加えようという試みが行われるようになってきた。そのひとつの流れが、CASM (Cognitive Aspects of Survey Methodology) と呼ばれる研究プロジェクトである。このプロジェクトの研究動向(先駆的・古典的研究も含む)についてレビューするとともに、そこでの知見を社会調査の現場(企画・準備・実査から分析や成果報告に至るまでのプロセス)に実践的に生かす道を探求する。あわせて、センシティブな質問などを用いる場合の倫理的問題とそれへの対処法などについても考える。

4. 学習の到達目標：

認知科学等の知見を社会調査の企画・準備・実査・分析・報告・倫理向上に活かす。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業計画の説明
2. 世帯調査におけるカバレッジ誤差 (Martin 1999)
3. コーディングのエラー (Collins and Courtenay 1985)
4. 事実質問における不明確な言葉 (Fowler 1992)
5. 出来事の想起 (Neter, et al. 1964)
6. 事実質問における回答選択肢 (Schwarz, et al. 1985)
7. センシティブな質問 (Tourangeau, et al. 1996)
8. 無回答・回答拒否 (Groves, et al. 2006)
9. 質問順序効果 (Schwarz, et al. 1991)
10. 評定尺度におけるラベルの影響 (O'Muircheartaigh, et al. 1995)
11. 評定尺度における方向性と強度 (Krosnick and Berent 1993)
12. プリテストの新技术 (Oksenberg, et al. 1991)
13. 調査員効果 (Schuman and Converse 1971)
14. 調査員変動 (Kish 1962)
15. インフォームドコンセントの方法 (Singer 1978)

6. 成績評価方法：

期末レポート [50%]、平常点(授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程) [50%]

7. 教科書および参考書：

Public Opinion Quarterly, Journal of the American Statistical Association, Journal of Official Statistics, American Sociological Review などの学術誌に掲載された論文で指定されたものを、参加者各自が「電子ジャーナル」からダウンロードする。

8. 授業時間外学習：

- (1) 演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。
- (2) 担当の文献に関する報告の準備をする。
- (3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。

9. その他：なし

- (1) 専門社会調査士資格認定標準科目Hに対応。
- (2) 受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

科目名：計量行動科学研究演習Ⅲ／ Quantitative Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：永吉 希久子（准教授）

講義コード：LM15209， 科目ナンバリング：LIH-OS0609J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 計量行動科学研究演習Ⅲ 】

1. 授業題目：

偏見の社会学

2. Course Title（授業題目）：

Sociology of Prejudice

3. 授業の目的と概要：

目的：偏見の生じるメカニズムについて、理論にもとづいて説明できるようになる。

概要：偏見の形成と維持のメカニズムのついての最新の知見を、文献講読を通じて学ぶとともに、今後の研究可能性について議論する。

4. 学習の到達目標：

個々の理論の関連を理解し、偏見に関する一連の研究を体系的に説明できるようになる。

偏見の生じるメカニズムについて、理論にもとづいて説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

Lieterture review を通じて、偏見研究でこれまで得られている知見を学ぶ。初回に担当を割り振り、それぞれが担当の論文について紹介し、全体でそれをもとにした議論を行う。

【授業内容】第1回：イントロダクション

第2回：偏見の諸形態

第3回：偏見と社会的カテゴリ化

第4回：権威主義的パーソナリティとその発展

第5回：潜在的偏見と顕在的偏見

第6回：ステレオタイプ

第7回：接触理論

第8回：偏見と社会制度

第9回：偏見とメディア

第10回：偏見と教育

第11回：性別に関する偏見

第12回：人種・民族に関する偏見①

第13回：人種・民族に関する偏見②

第14回：喫煙・肥満に対する偏見

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

授業での発表（30%）、ディスカッションへの参加（20%）、最終レポート（50%）

7. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。

8. 授業時間外学習：

テキストを事前に読み、担当回については内容をまとめてくる。

偏見によって生じる諸問題について、ニュースなどから情報を集めることが望ましい。

9. その他：なし

科目名：計量行動科学研究演習Ⅳ／ Quantitative Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：永吉 希久子（准教授）

講義コード：LM25209， 科目ナンバリング：LIH-OS0610J， 使用言語：日本語

【（平成30年度以前入学者）対応科目名： 計量行動科学研究演習Ⅳ 】

1. 授業題目：

移動と階層

2. Course Title（授業題目）：

International Mobility and Social Stratification

3. 授業の目的と概要：

目的：出入国管理法の改正に向けた動きが活発化し、さらなる外国人労働者の受け入れが行われつつある。しかし、外国人労働者の受け入れに関しては、制度整備が十分に行われていないことが指摘されている。この授業では外国人留学生の就職／就労をとりあげ、そこでの問題の実態を説明できるようになることを目的としている。

概要：外国人留学生の定着率が高まらないのはなぜか。就労／就職に関わる障壁を検討する。

4. 学習の到達目標：

外国人留学生の就職／就労に関する問題の実態を説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業内容：関連する文献についてのディスカッションを通じて、内容を理解する。毎回担当者が論文の内容をレジュメにまとめ報告する。さらに、第8回、第9回、第14回（予定）では、国内外の就職活動の状況について各自調べてきた内容をもとにディスカッションを行い、日本の労働市場で留学生が就職活動をする際の困難について考える。

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：労働市場と外国人労働者①

第3回：労働市場と外国人労働者②

第4回：日本における外国人留学生①

第5回：日本における外国人留学生②

第6回：日本における外国人留学生③

第7回：就職活動の国際比較①

第8回：就職活動の国際比較②

第9回：専門職外国人の労働条件①

第10回：専門職外国人の労働条件②

第11回：専門職外国人の労働条件③

第12回：専門職外国人の労働条件④

第13回：専門職外国人の労働条件⑤

第14回：外国人向け求人の特徴とは

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

授業での発表（30%）、最終レポート（70%）

7. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。

8. 授業時間外学習：

事前にテキストを読んでくること。担当回ではテキストの内容についての報告を行ってもらうので、事前準備が必要となる。

また、国内外の就職活動の状況について報告を行ってもらうので、資料収集が必要となる。

9. その他：なし